

岡病防第 14 号  
平成22年 9 月 1 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡 山 県 病 害 虫 防 除 所 長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平 成 22 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 6 号

平成22年 9 月 1 日  
岡 山 県

予 報 概 評

| 作物名         | 病虫害名   | 発生時期                  | 発生量                                |
|-------------|--|-----------------------|------------------------------------|
| 水 稻         | 穂いもち病<br>紋 枯病<br>白葉枯病<br>穂 枯れ<br>もみ枯細菌病<br>トビイロウンカ | 並<br>—<br>—<br>—<br>— | やや少<br>並<br>並<br>やや少<br>やや少<br>やや多 |
| ダイズ         | べ と 病<br>紫 斑 病<br>葉 焼 病<br>ハスモンヨトウ<br>カメムシ類        | —<br>—<br>—<br>—<br>— | やや少<br>やや少<br>やや少<br>やや多<br>並      |
| モ モ         | モモハモグリガ<br>ハダニ類<br>ウメシロカイガラムシ                      | —<br>—<br>遅           | やや多<br>並<br>やや多                    |
| ブドウ         | 褐 斑 病<br>べ と 病<br>さ び 病<br>ブドウトラカミキリ               | —<br>—<br>—<br>—      | やや多<br>並<br>並<br>並                 |
| キュウリ        | べ と 病<br>褐 斑 病<br>炭 疽 病<br>うどんこ病                   | —<br>—<br>—<br>—      | 並<br>並<br>並<br>やや多                 |
| トマト         | 疫 病<br>斑点細菌病<br>葉かび病                               | —<br>—<br>—           | やや少<br>並<br>やや多                    |
| アブラナ<br>科野菜 | アブラムシ類<br>モザイク病<br>コナガ<br>ハイマダラノメイガ                | —<br>—<br>—<br>—      | 並<br>並<br>並<br>やや多                 |
| キ ク         | ナミハダニ  | —                     | やや多                                |

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 穂いもち (晩生種)

##### 予報内容

発生時期 並  
発生量 やや少

##### 予報の根拠

- ア. イネ (晩生種) の生育はおおむね平年並である。
- イ. 8月16～17日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は44.4%で、平年 (57.5%) よりやや低かった。
- ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

#### (2) 紋枯病 (晩生種)

##### 予報内容

発生量 並

##### 予報の根拠

- ア. 8月16～17日の巡回調査によると、発生圃場率は39.0%であり、平年 (56.7%) よりやや低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。
- イ. イネの茎数は平年並であり、特に助長要因ではない。
- ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

#### (3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

##### 予報内容

発生量 並

##### 予報の根拠

- ア. 8月16～17日の巡回調査では、平年どおり発生を認めなかった。

#### (4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

##### 予報内容

発生量 やや少

##### 予報の根拠

- ア. 8月16～17日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は20.6%で、平年 (33.6%) より低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。
- イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

#### (5) もみ枯細菌病 (晩生種)

##### 予報内容

発生量 やや少

##### 予報の根拠

- ア. 前年度の発生量が平年より少なかったため、本年度の種子の保菌率は平年より少なかったと考えられる。
- イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

#### (6) トビイロウンカ

##### 予報内容

発生量 やや多

##### 予報の根拠

- ア. 予察灯 (赤磐市) における8月1半旬～5半旬の誘殺数は12頭で、平年 (1.4頭) より多かった。

- イ. 8月16～17日の巡回調査によると、発生圃場率は5.6%であり、平年(2.1%)よりやや高かった。
- ウ. 見取り調査による株当たり虫数は0.17頭で、平年(0.06頭)よりやや高かったものの、防除の目安となる成幼虫が10頭以上寄生している株は認められず、増殖率の高い短翅型雌成虫は認めなかった。
- エ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いとされており、高温条件は本虫の発生を助長する要因となる。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査では、平年どおり発生を認めなかった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査では、平年どおり茎葉での発生を認めなかった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査において、発生は平年よりやや少なかった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は、1079頭で平年(1301頭)並であった。

イ. 8月16日～17日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は15.7%で平年(5.6%)より高く、発生程度は平年並であった。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 予察灯(赤磐市)における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは10頭で平年(9.3頭)並であり、イチモンジカメムシは6頭で平年(20.3頭)より少なかった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は

平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

## 2. 果樹

(モ モ)

### (1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. フェロモントラップ(赤磐市)における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、30頭で平年(34.8頭)並であった。

イ. 8月10日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平年(4.7%)よりやや高かった。

### (2) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月10日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(48.9%)並であった。発生程度が中程度以上の圃場率は3.6%で平年(18.4%)より低かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

### (3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 遅

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は9月3日で、平年(8月26日)より遅い。

イ. 7月16日の県南部における巡回調査によると、第1世代成虫及び第2世代幼虫の発生圃場率は7.1%で過去9年間の平均値(0%)より高かったが、発生程度は低かった。

防除上の参考事項

ア. 近年、増加傾向にある圃場が散見される。

(ブドウ)

### (1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)での発病葉率は43.5%で、平年(41.7%)並であった。

イ. 8月9日の巡回調査では、ピオーネを中心に発生が認められ、発生量は平年よりやや多かった。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

### (2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月9日の巡回調査によると、発生圃場率は91.7%で平年（78.1%）並であった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月9日の巡回調査では、平年どおり発生を認めなかった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する要因ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬幼虫による5～6月の被害枝の発生は平年並であった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月19日の県予察圃場（赤磐市）での発病葉率は17.0%で、過去4年間の平均値（23.0%）よりやや低かった。

イ. 8月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は57.1%で過去9年間の平均値（34.9%）より高かった。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月19日の県予察圃場（赤磐市）での発病葉率は14.6%であり、昨年の発病葉率（33.1%）より低かった。

イ. 8月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は57.1%で過去9年間の平均値（65.8%）並であった。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月19日の県予察圃場（赤磐市）での発病葉率は0.6%で、発病を認めなかった過去2年間よりやや高かった。

イ. 8月23～24日の巡回調査において発生を認めず、過去9年間の平均値（19.5%）より低かった。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月19日の県予察圃場(赤磐市)での発病葉率は13.5%で、過去3年間の平均値(4.8%)よりやや高かった。

イ. 8月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は85.7%で過去9年間の平均値(22.8%)より高かった。

ウ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月23~24日の巡回調査において発生を認めず、過去9年間の平均値(3.7%)より低かった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を抑制する要因となる。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月23~24日の巡回調査において、平年どおり発生を認めなかった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月23~24日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で過去9年間の平均値(24.9%)並であった。

イ. 8月28日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、高温条件は発病を助長する要因となる。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並  
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬~5半旬の飛来数は180頭で、平年(361.2頭)より少なかった。

イ. 8月23~24、26日の巡回調査によると、一般圃場におけるアブラムシ類の発生は平年並であった。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）における8月1半旬～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は7頭で、平年（7.8頭）並であった。

イ. 8月23～24、26日の巡回調査によると、ダイコン、キャベツ等での発生は県北部では平年よりやや多く、県南部では平年並みであった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月26日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイ、キャベツ等での被害発生圃場率は10.0%で、平年（22.5%）より低かった。

イ. 県予察圃場（赤磐市）の誘引作物クレオメにおける発生消長では、8月中旬以降の幼虫個体数は、昨年度（同時期予報：平年並）よりも多い。

ウ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 本虫は夏期が高温・乾燥状態で推移すると、突発的に大発生する傾向がある。8月は高温小雨で推移したため、今後の発生状況に応じて防除を行う。

イ. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

ウ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月23～24日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年よりやや多かった。

イ. 8月27日の季節予報によると、9月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239)

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224